『七大寺巡礼私記』の研究

1969年度美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室・平城宮跡発掘調査部の共同研究

『七大寺巡礼私記』の註解作製を主目的として，記事の逐語的検討を行うと共に，12世紀以前における南都七大寺の復原的研究を進めた。本年度は東大寺・大安寺ならびに興福寺の一部について検討を加えたが，特に大きな成果としては『十五大寺日記』なる逸書の逸文の発見があげられる。これは興福寺南円堂不空羂索観音並びに東大寺大仏に関するものであるが，その記事を比較すると『巡礼私記』の該当記事はこれに拠ったのではないかと考えられ，その成立を究明する上での1つの重要な手懸りとなる。又従来『巡礼私記』逸文と考えられていた興然撰『図像集』所収「或記」についても，はたしてそれを逸文と考えてよいかはきわめて疑問で，むしろ『十五大寺日記』の逸文と考える方が妥当と考えられる。『巡礼私記』は南都七大寺研究上多くの重要な資料を含んではいるが，文献学的な研究はまだ十分とはいえず，『十五大寺日記』その他を手懸りとして，今後その面で研究を深めることの必要性が痛感された。昭和45年度においては，註解作製と並行して，文献学的な面においても研究を深めていきたい。なお本研究は44年度文部省科学研究費補助金（総合研究　研究代表者守田公夫）を受けた。